

累計**5万部突破!!**

トップセールス・政治家・一流タレント
有名アスリート・上場企業経営者 など

**50,000人以上が受講した
人気講座のエッセンスを凝縮した1冊**

著者:青木仁志

価格: **825円**(税込)

アチーブメント株式会社

目標達成の技術

人はいつでも
なりたい自分になれる

もっと売上を
上げたい!!

良い人間関係を
構築したい!!

マネジメント力
を高めたい!!

ご購入はコチラ

株式会社サンビルダー

会長 杉 浩二
代表取締役 杉 研輔

宅地建物取引業 兵庫県知事(12)第7311号
一般建設業 兵庫県知事 許可(般-2)第115891号

〒651-0068神戸市中央区旗塚通6丁目2番2号サンビルダー55ビル
Tel (078)231-5550 FAX: (078)231-1200
E-mail: sun@sunbuilder.jp

神戸を中心に
豊富な自社物件

ロングライフは、ケアサービス、リゾートを
全国に展開しています。

Health & Natural Beauty
ロングライフクラブ

大阪本社 / 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階
東京本社 / 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階

0120-550-294

お問い合わせはお客室相談室へ 受付時間/9:00~18:00 年中無休

Ambassador


マーケットプレイス・アンバサダーのご紹介

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構) <https://www.hungerzero.jp/>

飢餓をゼロに!世界を変えるためのチャレンジを続ける

世界では8億1500万人が、健康で活動的な生活を送るために必要かつ十分な食料を手に入れることができず、世界人口の約11%、9人に1人が飢餓で死に直面しています。日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry、略称JIFH)は、そんな飢餓・貧困と闘いながら懸命に生きようとする人々に協力し、飢餓のない世界の実現のために活動する非営利の民間国際協力団体(NGO)です。1981年設立以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げ、現在では、18カ国55の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、その地域をよく知るパートナーと共に、「飢餓・貧困に苦し

む人々の基本的必要が満たされること」「人々が自分の可能性に希望を持って生き、隣人を愛する人となっていくこと」「共に分かち合い助けあう社会が広がっていくこと」を目標に働きを行なっています。2年前には、その働きをさらに多くの人に知ってもらおうと団体の通称名を「ハンガーゼロ」に統一しました。YouTubeなどをとおしてその働きを国内外に発信するなど、「ここからからだの飢餓をゼロに!」をスローガンに世界を変えるためのチャレンジを続けているところです。ところで、飢餓と貧困は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標であるSDGs(エス・ディー・ジーズ)が掲げる17の目標に含まれる問題でもあります。「ハンガーゼロ」では、SDGsとの関わりで企業や学校などに呼ばれ、食料問題について講演を行うこともあります。飢餓や食料問題は、ビジネスの世界にも深く関わっています。実際に今現在、食品ロスをなくしたり、売り上げの数パーセントをアフリカの子どもの給食に当てたりする取り組みが企業単位で行われています。私たちは、それをビジネス・フォー・ミッション、ビジネス・ウィズ・ミッション、ビジネス・アズ・ミッションなどと呼んでいるのですが、ビジネスをとおして、SDGsを達成していきたいと願う企業家が増えています。私たちはそういった企業家ができることを一緒に考え、協力して飢餓や貧困がない社会をつくっていきたいと考えています。まずは、自分ができることを見つけて、そこから始める。「わたしから始める、世界が変わる」。それが私たちのモットーです。



名古屋出身。2018年にハンガーゼロ総事務に就任以来、国内外で貧困についての啓発活動を行う。20年2月から東京へ単身赴任中。家族は、妻と2人の子ども。

近藤 高史

一般社団法人日本CBMCは、CBMC International傘下にある、キリスト教信仰を基盤とした国際ビジネスマン団体です。クリスチャンビジネスマンたちが集う異業種交流会として米国ではじまり、現在は世界90か国以上に活動の輪が広がっています。この国際的な団体の輪に加わり、共にイエス・キリストに遣わされたアンバサダー(大使)として、社会に良い影響をもたらしたいと思っている皆様は、こちらのQRから日本CBMCのサイトにアクセスいただき、活動情報をご確認ください。

※当団体は統一協会、エホバの証人(ものみの塔)、モルモン教とは関係ありません。

CBMC PRAYER WARRIORS

【CBMCオープン祈禱会】祈禱/シェア
開催:当面Zoomのみ
開催日時:第一土曜、午前10時~11時
詳細:office@cbmc.jpまで

CBMC ONLINE FELLOWSHIP

【オンライン支部会】mana/シェア
開催:Zoomのみ
開催日時:第三土曜、午前8時~9時
詳細:office@cbmc.jpまで

CBMC BIBLE+MARKETPLACE

【CBMCオンライン例会】学び/シェア
開催:Zoomのみ
開催日時:奇数月第四週、19時~20時
詳細:office@cbmc.jpまで

CBMC FEMALE GATHERING

【CBMC女性ランチン】交流/シェア
開催地:都内
開催日時:月に1度、都度変更
詳細:office@cbmc.jpまで

CBMC BIBLE+FELLOWSHIP

【神戸支部会】証/聖書の学び
開催地:神戸市中央区旗塚通6-2-2 サンビルダー 55ビル3F
開催日時:第三火曜、18時~20時
連絡先:大鶴 Tel080-3109-2749

その他諸集会

■ビジネスリーダーズ講演会
→不定期開催、有料セミナー
■日本CBMC国家朝餐祈禱会
→10月18日(火)ザ・キャピトルホテル東急

ビジネスとマーケットプレイスをキリストにつなぐ

Marketplace Ambassador

2022 創刊号 First Issue

Top Interview

思考は現実化する。

青木仁志

一般社団法人日本CBMC 理事長

Monday Manna

エゴという名の犬を手なずける

マタイの福音書23章27-28節
サムエル記第一16章7節
箴言27章21節
ピリピ人への手紙2章3-4節

人には誰も褒められたい、認められたいという欲求があります。オペラ作曲家であるヴェルディは、イタリアのミラノにあるスカラ座でピアノリサイタルを行った夜、観客の拍手に酔いしれ、アンコールで観客を喜ばせることができる派手な曲を演奏しました。演奏後、観客は大喝采を浴びせましたが、大切な恩師を失望させました。ドイツの哲学者であるニーチェは、この欲をこう表現します。「わたしが登山をすると、必ずエゴという名の犬がついてくる。このエゴは、褒められると膨らむ。権力や成功を求めている。そして、どれだけこれらのものを手に入れても、決して満足しないのである」。ビジネスやプロの世界では、最も新しい成功を収めてこそ自分の実力だというメッセージを発信し続けることで、この欲求を満たしています。しかし、称賛を求める行為は、ヴェルディのように、ベストや正しいことでなかったとしても、望む反応を得るために妥協してしまうことがあるのです。聖書には、「人はうわべを見るが、主は心を見る」とあります。外側をいくら取り繕っても、神の前では評価されないということです。旧約聖書の時代、イスラエルの新しい王を選ぶにあたって、神は「見た目テスト」を合格する者ではなく、「心テスト」に合格できる者を探していました。のちに神は、「わたしの心になかった者」と呼ばれる、ダビデを選ばれたのです。私たちは称賛を受ける際、どのように反応するでしょうか。もっと称賛してほしいのでしょうか?それとも、謙虚な感謝の気持ちで応答するでしょうか。褒められたいという気持ちが強いと、自分たちを中心に考えてしまいます。ですが他者を優先すると、自分のエゴはあまり気にならなくなるものです。称賛は、まさに人格を試すテストだといえます。

青木仁志

一般社団法人 日本CBMC
理事長

1955年北海道函館市生まれ。若くしてプロ・セールスの世界に入り、ブリタニカ社、能力開発トレーニング会社を経て、87年、32歳で選択理論心理学を基礎理論としたアチーブメント株式会社を設立。現在、グループ4社となるアチーブメントグループ最高経営責任者（CEO）。これまで30万部のベストセラーとなった『一生折れない自信のつくり方』（アチーブメント出版）シリーズをはじめ61冊の本を出し、法政大学大学院の客員教授を2010年より3年間務め、会社のほかに医療法人の経営、文化活動のバックアップも行っている。



思考は現実化する。自身も経験したこの事実を一人でも多くの人に伝えたい。

日本CBMCの理事長であり、人材教育コンサルティング会社「アチーブメント」を筆頭に、グループ4社の最高経営責任者である青木仁志氏（67）は、ベストセラー作家、大学院の客員教授といった様々な顔も持つ。「人生はどうしたら良くなるのかを追求し続けてきた」と話す青木氏は、仕事の極意を聞いた。



営業の世界でトップセールスマン、さらにトップマネージャーとして活躍していた青木氏が、そんな強い思いを抱いて1987年10月、32歳で「アチーブメント」を創業した。5人だった従業員は今や215人、グループ会社は4社となった。コロナ禍にあっても2021年度は業績を回復し、売上41億円、経常利益は10億7000万円。「働きがいのある会社（従業員100～999人部門）」のベストカンパニーとして7年連続ランクインしている。

会社経営の秘訣について、青木氏は「経営者たるは、心をつくっていかないと本当に良い経営はできない」と言う。

「利益は目的ではなく結果である。良い仕事を真剣に、誠実に追求することで、結果としてもたらされるものである。目的があって初めて、目標へのこだわりが生まれるものなのです。大切なのは目的経営であり、目標経営ではありません。社員を大切に、お客様との約束を守る。お客様の成果の創造を追い、適正利益を生み出す。そして、しっかり納税して国を豊かにしていく。近江商人の言う、売り手よし、買い手よし、世間よしですね。私はこれをトリプルWIN経営と考えていますが、その根底にある経営の目的が良ければ、必ず会社は発展すると思っています」

もっとも青木氏も、社会人になった頃からこうした考えを持っていたわけではない。17歳で北海道から家出をして東京へ。社会人のキャリアは溶接工見習いからスタートし、「社会の底辺を見るような職業」を転々とした。20代前半で起業したものの倒産、挫折と多額の負債を抱えたが、ひょんなことから入社したブリタニカの営業職で頭角を表す。猛烈に働き、トップセールスマン、さらにトップマネージャーへと上り詰めた。

そんな中、29歳で大きな転機が訪れる。恩師となる夏目志郎先生との出会いだ。能力開発コンサルタントでありトップセールスマンだったクリスチャンの彼に誘われ、青木氏はキリスト教の伝道大会に参加した。「牧師の『神様があなたを休ませてあげます』『人間はどんなに努力をしても、罪深い存在なので、自分の行動では救われないのです』という説教は心に強く響きました。私には当時、トップマネージャーという自負と虚栄心があり、営業こそが全てと信じていました。でも一方で、いつも満たされない気持ちもあったのです。私が一番欲し

かったものは『愛』だと気づきました。その時、聖書の『自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ』というみことばを知り、私は変わったのです。『何事でも人々からしてほしいと望むことは、他の人々にもそのようにしなさい』というマタイによる福音書7章12節は、私の座右の銘となりました」

聖書のことばが青木氏の土台に入ったことで、人生の目的が『競争・力』から『愛・誠実・感謝』へと180度変わった。彼がいま能力開発を行う事業で用いる「アチーブメントピラミッド」という概念は、「人生理念」・「ビジョン」という目的を土台として据え、その上に「目標」「計画化」「日々の実践」の5段階からなる。ブリタニカ時代は理念・ビジョンという土台がなく、目標がエゴイズムであったがために幸せを感じることができなかった。それが、「何事でも人々からしてほしいと望むことは、他の人々にもそのようにしなさい」という聖書のことばを具象化していくと、必要なものが与えられ、協力者が集まってきたと言う。

事業で人を重視するアチーブメントにとって、「ファンづくりは何



より大事」（青木氏）だ。販路の拡大は、口コミが中心の同社にとって、お客さまとの信頼関係があってこそ。充実した商品やサービスへの満足はもちろん、営業パーソンの誠実な人柄がお客さまを引きつけることは間違いないだろう。

こんなことがあった。ある企業の採用コンサルティングで、約束した人数を採用できなかった。青木氏はコンサルティング料金の全額返金を申し出たが、相手も勉強になったと最終的には半額で決着。その企業はいまも人材採用を希望している会社にアチーブメントを紹介してくれるという。まさに、「事業は人と人とのつながりで成り立っている」（青木氏）。

翻って、マーケットプレイスで今まさに活動している私たちは果たして、隣人を愛し、自分がしてほしいことを他の人にもしているだろうか。ビジネスで成功するための鍵がここにある。青木氏はこうアドバイスする。

「相手にとって信頼に足る人間でなければ、伝えたいことがあっても伝わりません。聖書は『霊の結ぶ実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です』と言っていますが、このような生き方を実践し、示すことができるなら間違いなく信頼を得ることができます。人は、そのような魅力のある人のところへ集まるのです」

ACTIVITIES CBMC 国内外活動

CBMC ベトナム

COVID-19パンデミックは、時間と機会を最大限に活用しなければならないという思いを私に起こさせました。そこで、クリスチャンのビジネスマン・グループと協力して「The Same Heart」を立ち上げ、地域社会を支援する活動を始めたのです。具体的には、コロナ患者の家に薬を届けたり、呼吸困難に陥っている人には酸素濃縮器を提供したりしています。仕事を失い生活に困っている人へ食事の提供も行います。これらの活動は全て無償で行い、困った人がいると聞けば、大雨の中でも駆けつけます。また、医師である私は、自宅療養中のコロナ患者に電話で診療を行うクリス

チャン医師チームにも参加しています。毎日50～60本もの電話があり、声が出なくなることもありますが、15分程度の時間で1つの命が救えるのだと思うと電話を取らずにはいられません。時には過酷とも思える私たちの活動ですが、その根底を支えるのは、聖書の御言葉です。聖書には、行いが伴わない信仰は、誰も救うことはできないと書いてあります。



ホワン先生



医学博士。ホーチミン市のプライマリーヘルスケアシステムのチーフを15年間務め、現在は宣教活動に専念。ベトナム全土で講演などを行う。

